

無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



vol.

67

2020.10

開館 20 周年を迎えて

異世代交流ブリッジインタビュー

<https://www.scrum21.or.jp/>

開館20周年を迎えて

異世代交流ブリッジインタビュー

すくらむ 21 は開館 20 周年を迎え、現在周年行事に取り組んでいます(2019 年 9 月～2021 年 2 月予定)。その一環として、本号では、2019 年度のインターンシップ事業において、20 周年記念企画として、すくらむ 21 に関わってきた方々にインタビューを実施した内容を本誌用に再構成しました。この 20 年を振り返るとともに、これからについて、インターンシップ生たちと聞きました。

開館 20 周年記念編 その 1

すくらむ 21 が開館したのは 1999 年 9 月。この 20 年を振り返る前に、より以前から本日に至るまでの女性の地位向上に関する歴史を簡単に振り返っておく必要があります。インターンシップ生にも、生まれる前の先輩の思いや運動などを知る機会をいただきました。

1975 年当時、「women」を「婦人」と訳していた関係で、「国際婦人年」*1 と呼んでいました。国連で、国際的に取り組むべき課題を設定して、加盟国が各国で取り組んでいます。1975 年は女性の地位向上に取り組むを進めべきと定められました。

国連加盟国であるわが国も、主だった自治体も先進的に取り組みを始めました。東京都や神奈川県のほか、川崎市も北京会議(1995 年)に公費で市職員を派遣するなど、積極的に取り組む自治体のひとつでした。

行政で施策として取り組みを進める場合には、まず組織内に「本部」を設置し、「計画」を策定し、「施設」を建設するなどします。この流れを川崎市も踏襲していました。1979 年、川崎市は婦人問題行政窓口を教育委員会社

会教育課に設置しています。その後、1983 年には市民局に婦人室を設置し、現在の市民文化局へとつながっています。略年譜*2 を見ると、1985 年から計画の策定が始まり、1991 年から施設、つまり、センターの構想を始めたことがわかります。

井上先生からは、行政の扱う課題になることで、業務としてやらねばならないものとなり、「人がつく、予算がつく」ところが、民間の運動とは大きく異なる点だと教わりました。また、初期に井上先生とともに川崎市職員として携わった方々が、非常に熱心に取り組む、今に至る礎を築いたことも教えていただきました。

国広先生からは、2000 年度に実施した「かわさきジェンダー指標アンケート調査」には、市職員が中心となって進めたことや、初期の計画をゼロから学識経験者と職員とで合宿して取り組んだことなどを伺いました。

その後、すくらむ 21 の 20 年を振り返り、さらに、これからについて聞いてみました。



井上輝子さん

和光大学名誉教授。日本で女性学を始めたバイオニア。1982 年 6 月に川崎市婦人問題懇話会委員になったことが市婦人行政(当時)とのかかわりのはじめ。その後、「男女共同社会をめざす計画策定委員会」委員など計画に関連した委員を歴任した。すくらむ 21 開館以降は、センター運営委員長や男女平等推進審議会会長などを務め、2004 年には川崎市制 80 周年記念表彰を受けるなど、長年にわたり、学識者として市の男女平等推進にかかわる。2019 年 8 月 22 日インタビュー実施。

国広陽子さん



武蔵大学名誉教授。メディアとジェンダー研究、女性と政治参画研究。大学卒業後に就職し、結婚・出産を機に専業主婦を経験。大学卒業後の職業生活と家庭生活経験により、社会構造に由来する根強い女性差別に気づき、大学院でジェンダーを学び、大学に職を得る。川崎市では、2002 年に男女平等推進審議会副会長を務め、その後会長を務めるなど 10 年あまり関与。すくらむ 21 とのかかわりでは、公的広報に関する調査、ジェンダー視点指標検討会などの事業に参加。2019 年 8 月 27 日インタビュー実施。

すくらむ 21 の事業について、これまでのところをどのように評価なさっていますか。

— 井上さん

すくらむ 21 は、企業が男女共同参画センターの指定管理者になった全国初の例であり、そこにはメリットとデメリットがあると思います。指定管理者*3 として数字で評価されていくことによって、ものすごい量の事業を行っています。*4 その部分が目立っているように見えます。数字で表現されない部分、公的施設が担うべき部分、そういった範囲で市民のニーズが汲み取りにくい部分があるのではないのでしょうか。

— 国広さん

端的に挙げるとすれば、以下の 3 つでしょうか。
①インターンシップ事業が定着したことで、大学生など若い世代がすくらむ 21 の事業にかかわるようになってるのは頼もしく思います。ただ、市内で活発だった女性団体の 1990 年代(北京会議開催年前後)の盛り上

がりは今はありません。若い世代と、シニアとなった当時 40-50 代の方々のギャップ、その中間の世代をどうつなげていけるのか、ずっと気になっています。

②すくらむ 21 は、身近で気軽に立ち寄れるところに良さを感じてきました。地域の女性センターには建物も事業内容も生活に密着した泥臭さが大切ではないでしょうか。洗練されすぎたり、威圧感はないほうが良いと感じます。憧れの場所ではなく、使い勝手のよさを身上にしてほしい。世界の動きや社会全体の変化に敏感に、しかもそれを地域や家庭や職場で身近なこととして考えられるようひとひねりの企画が重要かと。

③その点で、すくらむ 21 まつりなど市民と連携、協力して地域に密着した事業を継続していることは強味です。生活の中で、男女平等や差別と関係する事柄は多様です。ジェンダー視点で、市民目線を忘れずに、事業を展開していくこと、その際、先端的な視点・国際的な視野をどう組み込むかが今後も課題だと思います。事業を通じて市民が力をつけていけるものであることが最も大切だからです。

国際婦人年(1975)に始まる、政府・地方公共団体の女性行政への取り組み

国連

- 1975 国際婦人年 第 1 回世界女性会議(メキシコシティ)で「世界行動計画」採択
- 1980 国連婦人の十年中間年世界会議(コペンハーゲン)女性差別撤廃条約に、日本政府は批准せず、署名をした
- 1985 国連婦人の十年最終年 第 3 回世界女性会議(ナイロビ)女性差別撤廃条約に、日本政府が批准
- 1995 第 4 回世界女性会議(北京)、「行動綱領」採択

日本政府

- 1975 総理府に「婦人問題企画推進本部」設置
- 1977 「婦人の十年国内行動計画」発表、国立婦人教育会館(NWEC: 現(独)国立女性教育会館)開館
- 1978 総理府「婦人の現状と施策—国内行動計画に関する第 1 回報告書」
- 1985 女性差別撤廃条約批准
- 1992 総理府に初の婦人問題担当大臣(河野洋平官房長官が兼務)
- 1999 男女共同参画社会基本法成立
- 2001 中央省庁の再編に伴い内閣府に男女共同参画局新設

地方公共団体

- 1976 東京都都民生活局発足(女性問題総合窓口の開設)
- 1978 東京都「婦人問題解決のための東京都行動計画」発表
- 1979 東京都婦人情報センターを日比谷図書館内に開設
- 1982 神奈川県「かながわ女性プラン」策定。神奈川県婦人総合センター開館
- 2000 埼玉県男女共同参画推進条例成立

川崎市

- 1975 「国際婦人年川崎のつどい」
- 1976 川崎市中小企業・婦人会館設置
- 1979 婦人問題行政窓口を教育委員会社会教育課に設置 → 1983 市民局婦人室
- 1985 市民団体「川崎の男女共同社会をすすめる会」発足 「川崎市男女共同社会をめざす計画」策定
- 1986 「川崎市女性問題推進協議会」を川崎市の女性政策に対する助言・チェック機関として設置
- 1991 『データにみるかわさきの女性』刊行、女性センター建設構想委員会発足
- 1999 川崎市男女共同参画センター(すくらむ 21)開館
- 2001 男女平等かわさき条例公布
- 2002 第 1 期川崎市男女平等推進審議会設置

すくらむ 21 の今後について、どのような展開を期待されますか。



— 井上さん

数字で表現しづらいが価値のあることや、計画に書かれていないが必要な独自の事業について、もっと取り扱ってもよいのではないのでしょうか。

国からの方針もあり、全国的に画一的なセンター事業が展開されている印象を持っています。そのような中でも、地域ごとのニーズの掘り起しは重要です。たとえば、渋谷区では同性パートナーシップ制度を作ったり、埼玉県では知事選の際に、候補者にジェンダー施策のアンケートを実施したりしています。

現在も取り組んでいる女性活躍推進法関連のことは、引き続き、取り組んでいってほしいと思います。女性の就業に関する多様な取り組みをメインにして今後とも継続したらよいと思います。



— 国広さん

シニア層にどうアプローチしていくかに工夫の余地があるのではないのでしょうか。人生 100 年時代とか。現役を終えて音楽や演劇、映像制作などへのデビューを後押ししていくこともおもしろいのではないのでしょうか。ホールは定員が 850 名ですが、満席を目指すだけでなく、工夫した活用法を考えられるといいですね。

若い世代（特に大学生）へ伝えたいこと



— 井上さん

公務員を志望する人も、民間企業を志望する人も、男女共同参画について知ってもらうのは、どこでも役立つ考え方であり、どのような進路を取ろうとも、このことは覚えておいてほしいと思います。

#metoo 運動に見られるような、自分が嫌だと思うことは嫌だと表明できる人間になってほしいと考えます。まずは、自分がどう感じているか、嫌なことを我慢しないでいられることが大事ではないでしょうか。



— 国広さん

卒業後、男女差別を経験する機会は在学時より増えるでしょう。そのとき、力になるのは、知識です。学生時代は「生きていく上での力を付けるために勉強している」と考えて、社会に出てからも学びつづけてほしいです。

そして、いずれは教えたり伝える立場にもなってほしい。上の世代は若い人の置かれている環境や、抱える問題を知らないことが多く、若い世代は、先輩たちがどのような問題を乗り越えてきたか、どのように法律や制度を整えてきたかを知りません。そのままですと男女平等社会を作るための知恵や経験が積みあがらず、残念です。センターを異なる世代や立場の人々が交流し、経験を共有し、学びあう大切な場の一つとして活用してください。

インターンシップ生からの感想

まず、男女差別を撤廃していくために、多大なる時間や労力が必要とされることを知り、現在の私を含めた女性たちが活躍できるのは、井上先生のように差別撤廃のために声をあげ続けた方々がいたからだ強く感じました。それと同時に、現代は私も含め嫌なことや気になることがあっても声をあげない人が多いと思ったので、これからは自分の意見や主張をしっかりと持ち、発信していきたいです。そして、川崎市で生まれ育った私にとって、川崎市の地域の特性についてのお話は、とても興味深く印象に残りました。中でも、地域差があるため、さまざまな要素や女性のライフスタイルに合わせた政策や取り組みが必要だということ、日本国籍を持つか否かにかかわらず、川崎市の住民として多様性を受け入れるということを他の地方公共団体よりも先進的、精力的に取り組んでいることを知り、川崎市民であることを誇りに思いました。

川崎市は横に細長く、工業地帯から郊外までであるため、女性のライフスタイルがさまざまであるという話を受け、公務員を目指している私自身が、川崎市に住む女性という単なる1つのカテゴリに分類してしまっていたことの過ちに気づくことができました。川崎市の7つの区、さらにはもっと細かな住民のライフスタイルを理解し、それに必要な対応やサービスを考えることが重要なのだと発見することができ、とてもよい機会になりました。

私は生まれてからずっと川崎市に住んでいます。しかし、今回井上先生のお話を聞いて、21年間も住んでいて、川崎市のことを何にも知らないと感じました。もっと自分の住んでいる町に興味を持つべきだと思いました。井上先生が最後の質問で答えられていた「嫌なことは嫌だと声をあげるべき」という話が印象に残りました。昔と違って現代では、SNSが発達することで、ひとりの声がとても影響を与えることもあるので、現代の若者が社会問題などに目を向けることで思いがけない解決方法が生まれることがあるのではないかと思います。私を含め今の若者は自分も社会の一員であるという意識が足りていないと思います。私たちも社会問題などを他人事と思わずどうしたら社会がよくなるのかを考え、声をあげることができれば、世の中もっと変わっていくと思います。これからは私ももっといろいろなことに興味を持ち、おかしいと思ったことはおかしいと声をあげられるようにしたいです。

すくらむ 21 開館の背景に地域の女性グループによる男女共同のための施設を求める市民運動があったことを初めて知りました。このインターンシップに参加するまで、私は男女共同参画センターに行ったことがなく、そのような施設があることも知りませんでした。若い世代の人たちにとって男女共同参画センターは身近な存在ではないと思いますが、このインターンに参加して、「男女共同参画」を求める人たちの多さを感じました。

今回のお話で川崎市がいかに男女共同参画について先進的な考え方をしているのかをよく理解しました。それぞれの地方公共団体の議員が男女参画についてどれだけ理解があるかによって男女平等が進むのか後退するかが変わってくるというお話を聞いて驚きました。ジェンダーバックラッシュが起こり、議会によって男女共同参画を進められない地方公共団体も多いと初めて知り、そういった流れがあるにも関わらず、「男女平等」という言葉が議会ですべて使われている川崎市は本当にすごいんだと改めて感じました。そこから、市民がどういった議員を選ぶべきなのかといった選挙の大切さも改めて考えるいい機会にすることができました。

*1 現在は、国際女性年と呼ぶこともある。

*2 井上輝子さん作成のものを一部修正するなどして、使用している。国広陽子さんにもご助言いただいた。

*3 公共施設の運営方法には大きく公営（＝直営）と民営がある。指定管理者制度は、民間事業者が公共施設の管理運営を行う民営の形態のひとつ。2003年に改正された地方自治法に指定管理者制度が導入されたことにより、全国の公共施設で本制度を利用した運営が広がっている。川崎市では、2018年4月1日現在、213施設が本制度の導入施設となっている（総務省 2019）。

*4 指定管理者が効率的で適切な事業を行っているかを確認するために、各地方公共団体では評価委員会を設けるなどし、毎年度ごとの評価を行っているところが多い。渋谷（2019）の整理によれば、男女共同参画センターの施設数などは、全国で351施設、うち公設公営239施設、公設民営107施設であり、公設民営107施設のうち、指定管理者制度導入施設は全国では105施設。目標の設定はそれぞれだが、川崎市の場合には、事業に関連した目標に「年間講座受講者を2,800人以上」としている。これは、定員20名の講座であれば、満員で実施した場合でも、140回以上開催することを意味する。毎月平均的に実施すれば、11.7回/月になる。2019年度の実績では講座開催回数は268回、参加延べ人数は4,446人であった。

参考文献等

川崎市男女共同参画センター 『2020年度事業概要』 2020年3月

渋谷典子 『NPOと労働法—新たな市民社会構築に向けたNPOと労働法の課題』 晃洋書房 2019年6月

総務省自治行政局行政経営支援室 『公の施設の指定管理者制度の導入状況等に関する調査結果』 2019年5月

矢澤澄子 「女性のエンパワーメントとジェンダー平等 国連「北京+20」の節目に」 『NWECC実践研究 第6号』 2016年2月

開館 20 周年記念編 その2

20 周年記念の 2 つ目の企画として、2007 年度にインターンシップに参加した第 2 期生 2 名にインタビューしました。ご協力いただいたぞうりんさん、みんじょんさんには、短期インターンシップに参加した当時の思い出を中心に語ってもらいました。

あなたにとって、すくらむ 21 でのインターンシップはどのような体験でしたか。



— ぞうりんさん

劇団員の方の超スパルタ指導には、強い印象が残っています。「まず返事がなっていない。はっきりしなさい。語尾を伸ばさない。モタモタしない！」など、今思えば当たり前のことですが。そして、熱い方なので、褒めてくれるときも、全身全霊で褒めてくださいました。大学生にもなれば、真剣に叱ってもらい機会がありません。ここでは、厳しく叱られたり、指導されたりしました。感謝しています。

すくらむ 21 のインターンシップでは、朝のセッションがあつて、帰日には日報を書きます。何となく始めて終わるのではなく、どういつつもりでこのインターンシップに参加して、どういつつもりで終わってなど、毎日振り返る機会を繰り返し経験しました。いろいろな職業人に会えて、いろいろ経験ができました。



— みんじょんさん

インターンシッププログラムの中で、大きい舞台にみんなと一緒に踊るプログラムがありました。からだを使うことに苦手意識をもっていて、人の前で踊ることが恥ずかしかった私は最後までうまく溶け込めず、最後には劇団員さんに怒られながら踊ることになってしまいました。できない自分、恥ずかしい自分と正面に向き合う

辛い時間でした。その時は「何で怒られながら踊らなければいけないだろう。踊りは元々楽しいものなのに」と思っていたのですが、振り返ってみればできなくても恥ずかしくも最後までやりきったことで、みんなと舞台上で踊った後、自信ができました。そして、一人だと途中で諦めたかもしれないこともサポートしてくれる人がいることで、がんばれるという大きいメッセージも受け取りました。

その後、現在に至るまでのジェンダー視点やすくらむ 21 のテーマに関連したご経験をお聞かせください。



— ぞうりんさん

就職活動時点で目指していた仕事ではありませんでしたが、事務局長の脇本さんに、「今いる環境で、自分がしたいことができるように、環境を変えていくように、がんばればいじゃない？」と言ってもらいました。

もう 10 年以上、初職をずっと続けていますが、この言葉を折に触れて思い出しながら、仕事をしています。最初は、自分の任されている仕事の意味がわからず、横目で活躍している同僚や友人を見ては、焦ったこともありましたが、働きつづけたからこそ得られたチャンスが沢山ありました。以前から関心のあったヒンディー語学留学や、大阪やインドでの勤務など、異動や転勤のたびに、新たな世界を開くことができ、今は自分の仕事、キャリアに誇りをもって働けるようになりました。

インターンシップで印象に残った“刺さる言葉” by ぞうりん

OB・OG 訪問は、会社概要や職場の雰囲気などを質問する場です。他方、職業人インタビューでは「何のために働くのか」といった根源的なことを聞く、とてもリアルな体験でした。努力や苦勞を重ねた、プロフェッショナルだからこそその言葉の数々は、今でも印象に残っています。

「仕事には、ワークライフバランスも大切だけれども、圧倒的な量も大切で、量をこなさなければわからないこともある」「やらなければわからない。これをこなすことで得られる何かがある」(プランナー)

「人間はやっぱり他者に触れることによって自分を理解することができるんだよ」(新聞記者)



ぞうりんさん

2007 年川崎市男女共同参画センターの夏期に行われる短期インターンシップの募集を見つけて応募しました。私たちは 2 期生です。参加動機は、国際基督教大学 ICU でジェンダーの研究をしていましたが、実際の社会でジェンダーがどのようになっている、どのようにジェンダーを変えることができるのか。自治体の取り組みに関心があったことです。

(2020 年 7 月 12 日インタビュー実施。)



みんじょんさん

すくらむ 21 に参加するようになったきっかけはジェンダーに関心があり、大学の中でも DV 被害者母子家庭を支援するボランティア活動をしていました。ジェンダーに関する夏休み中に出る活動を探していた中、偶然インターネットですくらむ 21 のインターン募集を見つけ、応募しました。

(2020 年 7 月 21 日メールによるインタビュー実施。)



— みんじょんさん

卒業して、IT 企業に就職し、コンサル業務をしました。2 年間一生懸命仕事をして、新人優秀賞を取り、顧客満足度 1 位も数回取りました。がんばればその成果が解りやすく数字として現れることにやりがいとおもしろさを感じました。その反面、会社の中でもいろんなジェンダーバイアスにも直面しました。エレベーターに乗ると必ず最初に女性がボタンを押してみんなが乗るまで待つ、最後に残って降りるまで待つ、女性の管理職は 0、自分のロールモデルになるような女性は少ない、しかし、反面教師になる男性はいっぱいいる、MTG に参加すると相手先の男性から「君一人で来たのか？上司は来ないの？」と言われる等、毎日「へえーなにこれ？ふざけるなーおかしいじゃん！」と違和感を覚え、朝から晩までブンブン怒ることだらけでした。しかし、ビジネス社会でおもしろいのはジェンダーより国籍より数字で認められること。ビジネスパーソンとして数字で示して仕事をするのおもしろさを知りました。数字は白黒がはっきりしていてとても分かりやすい。ジェンダーのグレーの世界とはまた違う魅力でした。今は転職してその数字の世界の外資系の投資業務をしています。やはり怒ることは相変わらず毎日ありますが、ただ怒るだけではなく、その中で自分ができること、改善してやっていけることを考えながら走っています。



— ぞうりんさん

本当に価値があることであれば、世の中が変わっていくことで、多くの人びとがその価値に気がついてくれるのではと思っています。インターンシップを経験して 10 年が経ちましたが、当時に比べて、世の中が大きく変化し、ジェンダーに対する意識も社会全体で高まっています。本質的な問題は、根気強く取り組む必要がありますが、いつか必ず、多くの人に理解されるのだと実感しています。今後は、ジェンダーの問題だけでなく、外国人や障害のある方など、様々なバックグラウンドを持つ人が、社会で一層活躍できるようになってほしいです。

すくらむ 21 には、事務局長の脇本さんのように思いを持って働いている職員さんがおられます。こうした方々は、地域の「財産」だと思います。今後一層、すくらむ 21 の皆様と、市民の皆様が交流を重ね、多様性を尊重する社会の実現に、一歩ずつ前進していただくことを願っています。



— みんじょんさん

当時、インターン同期のもえちゃんが作ってくれたすくらむ 21 のスローガンですが、「風向き、前向き」というフレーズがありました。今までのように一人ひとりやりたいことを、そして、できないことを風向きに前向きにそっとサポートしてくれる存在でいてほしいです。振り返ってみれば私もすくらむ 21 の皆様にサポートしていただき、インターンをした時間はとても学びと成長の時間になっています。そして、社会に出てもその経験と眼差しは生きています。今までと変わらずその役割をこれからも期待しております。

開館 20 周年を迎えたすくらむ 21、これから、どうなっていくことを期待しますか？



チャンスは来る by ぞうりん

社会人になり、仕事に就いたばかりのときは、何事も思うようにならず、悩むことも多かったです。しかし、自分なりに努力していれば、関心に近いことが向こうからやって来るような経験もしました。今いるところで、環境を変えていけば、自分にもチャンスが来ることもあるのです。インターンシップで脇本さんからそんなお言葉をいただいた際、未熟な私には実感が湧かなかったのですが、大人になった今、その言葉の意味を体感しています。



女性の視点で考える防災の知恵袋

16

心が遠い

こんな話がある 「おばあちゃん、お母さん、コロナが危ないから人が集まっている所に行かないでね、買い物やちょっとした用事全部やるから」と子どもが言ってくれるんです。「外に出るとうつるからね」涙が出るほど嬉しかったです。「孫にもしばらく会わないようによく言っておいたから」エ！孫にも

突然やってきた災害に自粛が続き 行き場のない不安を抱え、何とも無機質な日々を送りました。

いつになったら外出できる？

自粛が解除された時、いくつも聞こえてくる話は「高齢の両親の認知症が進んだみたい」 また、本人からは「少し歩こうと思ったらふらついて歩けないのよ」

私はボランティア活動を少しやっていますが 普段からやっていた高齢者の食事会・歌の会 全て中止 「少人数でやるのはどう？」と たまに実施意見があっても、「もしもの時だれが責任とるの」「そうですよね、中止しましょう。」

7月、高齢者体操がスポーツセンター、いこいの家で 人数制限がありながら始まりました。

皆、運動を待っていました。知り合いと話もしたい、体も動かしたい。

体操はマスクをつけて、熱中症に気をつけながら。

休憩時間でも「話を控えて」のお願いです。

でもまだまだ家族から、皆で集まったの体操は

やめておくように言われて、顔を見ていない方が

随分いらっしゃいます。

「体力が落ちました、すごいです。」 体は人生。

じっとしていたらダメなんです。

家族の言葉が優しくもあり、辛くもあり、それでも

ふれあいたいし、見て、聞いて、音も、においも感じたい

皆で繋がりたい。

始めましょう。いつまでも、どこでも歩いて。

じっとしないで。

足上げて 1、2、3、4、1、2、3、4。

心が寂しくならないように、家でも声出して。



女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（通称：JKB）

「戸籍姓」の呪い

仕事帰り、郵便物が届いていた。私宛でだった。名前を見た。「F原〇〇様」。戸籍姓で届いている▼結婚して10年以上が経つ。その間、戸籍姓をほとんど使っていない。役所、病院、銀行、クレジットカード決済以外は元の姓（S原）を使っている▼要は旧姓でしょ？と人は言う。「旧」の意味を辞典で調べると、「古い」「昔」「以前」とある。四捨五入したら半世紀S原を使っているのだから「昔」から使っているに違いない。でも古い姓なのか。今も使っているから「旧」じゃない。ナウの姓である▼「こだわり過ぎじゃない？」そう言う人もいる。かもしれない。ただ私からすると「結婚したら改姓する」延々と続く慣習の方が、よっぽどなこだわりを感じる。「どっちでもいいじゃん」。そうも思う。だからS原を使っている。ただ単にそれだけのことなのだ▼とはいえこの「頼んでもいないのに改姓」してくる呪いのような慣習は後を絶たない。年賀状はいい例だ。結婚してまもない頃、年賀状を出す時に「F原△△（パート

ナーの名前）」「S原〇〇（私の名前）」と並べて出した。でも必ず「F原△△様・〇〇様」に直って戻ってきた。その後、パートナーと私の姓名を並べて戻してくれたのは、たった1人だけ。多くはS原以前にF原の苗字すら書かず、下の名前だけを横に添える。なんて失礼な表記なんだ。みるたび気が塞ぐ▼「頼んでもいないのに改姓」してくる世間って一体何なのか。他方、パートナーはどう思うのか。聞いてみた。「F原の姓？別に使ってほしいとも思わないな」。スマホの登録名は10年経った今もS原のまま。年賀状の慣習に倣うなら変えるだろうが「なぜ変える必要があるの？」と即答された。「S原の時代に知り合った。それで認識している。だからそれでいいじゃない。それを結婚したからってなぜ戸籍姓に変えなきゃいけないの？意味がわからない」——ふたりは、そんなものなのだ。（シ）

20 すくらむコラム

ナメクジを探しに

今年は梅雨が長かった。前線の停滞が長引き、各地に豪雨災害を発生させた。昨年の豪雨災害もまだ記憶に新しく、被災地には十分に復興が進んでいない状況の方々もおられる。さらに、新型コロナウイルス感染症も収束の見通しが無い。厳しい中におられる方々には、お見舞いを申し上げたい▼とある地域の人権擁護委員が、小学生からの「子どもの人権SOSレター」に回答した話には驚愕した。小学生の相談は、新型コロナウイルス感染が怖いので、学校には行きたくない、オンライン授業にしてほしいというもの。人権擁護委員からの回答には、「お友だちと一緒にいるのが好きじゃないのかな?」「学校へ行かないとそんしちゃうかもね」「あきらめて、学校でがんばって」と書かれていたという。感染を怖れる子どもの気持ちを受けとめず、協調性のなさに読み替え、さらに、あきらめろと言う。こんな相談事業では、しないほうがよい▼川崎市は兵庫県川西市(1998年)に次ぎ、全国で2番目に子どもの権利条例を制定した(2000年12月)。子どもの権利は、自治体ごとに格差なく、等しく保障されな

ければならない。子どもの疑問にしっかりとつきあうことが、子どもの権利を保障することにつながるはずだ▼過日楽しい話を聞いた。ある小学生さん、梅雨のジメジメとした日に、ナメクジは塩をかけると居なくなってしまうことを教えてもらう。本当なのか。その様子は自分で見てみたい。ナメクジとカタツムリとの違いも気になる。カタツムリに塩をかけたら、どうなるの?この辺りまでは、今昔の多くの子どもが共通して興味を持つことだろう▼探究心旺盛な彼女は、自分でナメクジに塩をかけて観察してみたいと強く主張。あいにく、塩をかけるためのナメクジが見当たらない。ナメクジを探しに出かけなければならない。改めて考えると、ナメクジは望まないときにそこにおり、害虫として駆除しなければならない存在である。こちらから探しに行くものではない。いざ、ナメクジ探訪も、なかなか難しい。それでも、あきらめろと言う前に、子どもの好奇心につきあって、ナメクジの行方を一緒に考えるような心の余裕が持てる社会に暮らしたい。(り)

表紙の説明

2020年5月まで、建物の大規模修繕工事を行い、外観も含めてリニューアルされました。そして、非常階段に巻き付ける形で懸垂幕けんすいまくも新調しました。すくらむ21をご存知でも、何のための施設なの?と思われる方々もまだまだおられます。性別にかかわらず、誰もが力を発揮できるまちに。これまでも、これからも。ぜひ、引き続き、よろしく願いいたします。





BOOKS



2020年2月発行
 (編著者) 雨宮処凛
 (出版社) あけび書房株式会社
 (価格) 1,600円(+税)

『ロスジェネのすべて—一格差、貧困、「戦争論」』

2007年、当時の25歳から35歳をロスト・ジェネレーション(失われた世代)と名付けたのは、朝日新聞だという。2019年5月26日付同紙面では、「バブル崩壊後の景気悪化で新卒採用が減らされた1993年から2004年頃に社会に出た世代」と説明している。定義に幅はあるが、本書では、30代半ばから40代半ばの層を「ロスジェネ」と呼ぶ。自らも当事者と位置づける編著者の雨宮氏が、同世代の男女4名それぞれと対話した記録。

1973年生まれの木下光生氏との対談「第3章『自己責任』と江戸時代」では、1990年代以降のことかと一般に思われている自己責任論が実は江戸時代から続く発想であることに言及されている。国際的に際立つ「貧しい人に対する日本の冷たさ」を、300~400年もの歴史を持つ「自己責任」という考え方を、私たちは乗り越えることができるのか。各章から得られる示唆は多い。

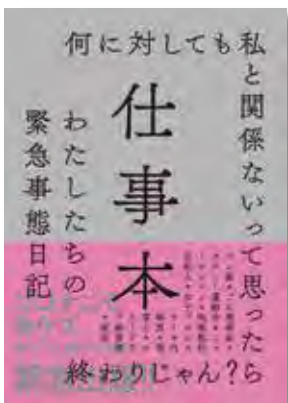


2019年12月発行
 (著者) 太田差恵子
 (発行) 日本経済新聞出版社
 (価格) 1,400円(+税)

『遠距離介護で自滅しない選択』

親の介護と聞くと、同居して、あるいは、近くに住んで、と思ひ浮かべる人が多いのではないだろうか。本書は、「遠距離介護」という言葉を用いてミドル世代の子が親を介護するときの心構えから、具体的な制度などを解説し、簡単には「遠距離」をやめないようにと伝えてくる内容だ。各項目では、「自滅する人」と「自分の人生を大切にす人」を対比させ、介護をする者が自分自身の人生を大切にしながら、どうすれば介護が可能なのかを教えてくれる。

介護保険制度ができてから20年余り。当時の介護世代は、介護される世代へと移行しつつあり、ダブルケアも考えなければならぬ時代になっている。遠距離の親を持つ人は、親の介護に直面する前に一度読んでおくとよい。すでに直面している人も、「自滅する人」になっていないか、振り返ってみてはどうだろうか。親の介護に終わりが来ても、自分は生きていかねばならないのだから。



2020年6月発行
 (編著者) 尾崎世界観、町田康、ほか
 (発行) 左右社
 (価格) 2,000円(+税)

『仕事本—わたしたちの緊急事態日記—』

本書は、4月の新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした緊急事態宣言が出された直後に企画されたさまざまな職業の77名による「緊急事態日記」だ。感染を恐れつつも休めないごみ清掃員。急に仕事がなくなったミュージシャン。「平時と変わらず仕事」の漫画家。部下だけではなく、飼育動物を毎日気遣う水族館管理職者。売る、運ぶ、闘う、率いる、添う、描く、書く、聞く、創る、守る、繋ぐ、導く、の12の動詞で職業を並べているのも興味深い。「繋ぐ」に

分類された旅行会社社員が自問した言葉、「旅行業は物を売らない。未来の体験に対する対価として金銭を授受する。未来が不確かな社会であれば取引は成立しない。平和な世界があつて初めて安心して旅行ができる、そんな当たり前のことを今回のコロナウイルスによってつくづく思い知らされた」に、共感する人は多いだろう。

イクメンコラム

イクメン研究所に所属し活動している研究員がつぶやく「イクメンコラム」。今号は、ママよりも娘と「密」を自認するDパパがなんとママイヤ期を経験！四六時中一緒にいるパパの窒息寸前な悲喜交々^{ひきこども}※を綴っております。



新型コロナとイヤイヤ期と俺

みなさま、緊急事態宣言の外出自粛期間と、それに続く「新しい生活様式」をいかがお過ごしでしょうか。わが家は体力がついてきた2歳の娘がイヤイヤ期を迎え、外出自粛期間は阿鼻叫喚な日々でした。

保育園が登園自粛になり、日中も父子一緒にいる日々が続きました。電車移動×、児童館も図書館も×、公園の遊具も×、スーパーは入店制限。ホットケーキミックスがなくなり、お菓子づくりで気をそらすのも×。わが家はトドメにテレビが臨終。この辛さは経験してみるまではわかりませんでした。遊びつくした家の中で、どうやって娘のあり余る体力を消費させるか考える日々。普段当たり前前に預かっている保育園のありがたさを痛感。

さらに！娘、ママイヤ期(?)に突入。朝起こすのも、お風呂も寝かしつけも、パパじゃないとダメに。それまでは、せめて食事をつくる時間は自分のペースで物事をすすめられる時間、とほっとできていたのが、ママのところまでじっと待っていてくれず、キッチンに入ってきて絶えず抱っこを要求。ここまで絶えず一緒

という状況に、妙なイライラが溜まっていきました。それでも「ママがイヤ」と言う以上、パパががんばらねばとか力んだわけで。

ある日、どうしても出社が必要になり、ママに娘をお願いしなければいけない事態に。出社するも気が気ではありません。パパの姿が一瞬見えないだけで泣き叫ぶのに、一日ママとだけで過ごせるだろうか。気を揉んで帰ると、結局、泣いたのは見送りのときだけ。後は、ママの言うこともイヤイヤ期ながらそれなりに聞き、おとなしく過ごしていたとか。その後、いつの間にかママイヤ期はなくなって、ただの自己主張期に移行していきました。

目の前に見えている状況だけで、ママに預けると不安と判断した“俺様”を反省。思い切って預けてみるときちんと関係を築けるんだ。こどもが泣くからといつまでも自分だけで対応していたら、ママイヤ期はもう少し長く続いていたはず。逆の状況でもきっと同じ。パパイヤ期でお困りのパパ、思い切って一日丸ごとパパだけで相手をするのが解決策かも。

今回の学び

- ✓ 好きでもしんどい「密」過ぎ育児。
- ✓ パパイヤ期って、多分パパ慣れの問題。こどもの人間関係力を鍛えるチャンス。
- ✓ こういう非常時のためにも、遊びネタをいっぱい持っておこう。



イクメン研究所とは？

「男女共同参画」って、女性の問題に捉えられがちです。でも、男性たちが地域や家庭で“活躍”することも、とっても大切なことなんです。

すくらむ21では、男性を対象とした事業を「イクメン研究所」としてくり、男性が地域へのデビューになりうる契機(第1子誕生)をとらえての事業展開を行っています。

イクメン研究所の詳細については、<https://www.scrum21.or.jp/welfare/ikimen/> をご覧ください。

^{ひきこども} ※悲喜交々とは、「喜びと悲しみが一度に、あるいは交互に訪れた一人の人間の心境」を指す。

相談事業のご紹介

すくらむ21では、女性のための総合相談（電話相談・面接相談）と男性のための電話相談を開設しています。今号では、新型コロナウイルス禍によって外出制限等が行われ、家で過ごす時間が増えたことで生活スタイルが変わり息苦しさを感じている女性の声を紹介します。

いくつかの相談を組み合わせ加工しています。相談された内容が外に漏れることはありません。

Q. 夫との関係に悩んでいます〈Aさん・女性 30代〉



結婚生活5年、子どもが生まれてから夫の態度が変わり、家事や育児、私の仕事や友人のことまでなんでも否定されます。私が言い返すと「冗談が通じないお前が悪い!」と機嫌が悪くなるので我慢していますがもう限界です。コロナで夫婦共に在宅ワークになり、顔を合わせる時間が増えたことも原因かもしれません。夫の言うとおりに、私が悪いのかもしれませんが、今日は何を言われるかと思うと毎日の生活が苦しいです…。

A.



お辛い中よくお電話くださいましたね。家庭と仕事とよくがんばってこられたと思います。あなたは悪くありません。あなたの夫のように、繰り返し相手を傷つける言葉を遣い、機嫌が悪いのを相手のせいにししたりする行為は、精神的な暴力の一つで、モラル・ハラスメントとも言われています。まずは自分を責めずにあなたの思いや感覚を大事にしてください。そして、何もかも一人で解決しようとしなくてあなたの辛さを分かってくれる人を探してみてください。これからのパートナーとの関係を含めてあなたらしく生きていくためにどのような方法があるか、一緒に考えていきませんか。

※実際の相談では、相談者の安全に配慮してこれまでの経緯や出来事をお伺いしながら、状況に応じて必要な情報を提供しています。

コロナ禍で今まで以上に疲れも溜まりやすい時。
あなたの生活の悩みも、生き方も、働き方も、
ちょっとした不安も、ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

女性のための総合相談 ☎044-811-8600

電話相談

日曜日12:00～17:00、月～木曜日10:00～15:00、
金曜日15:00～20:00（土、祝日及び年末年始はお休み）

面接相談

- ①女性の悩み相談
 - ②女性弁護士による法律相談
- まずはお電話でご相談ください。

男性のための電話相談 ☎044-814-1080

水曜日18:00～21:00（祝日及び年末年始はお休み）

